

# 無駄を省き、限られた予算を最大限生かす議論を



南島原市議会議長  
梶原 重利

明けましておめでとうござ  
います。

市民の皆さまには、輝かしい  
新春を健やかに迎えのこと  
と心からお慶び申し上げます。

日ごろは、市議会に対する  
温かいご理解とご協力を賜り、  
厚くお礼申し上げます。

私は、昨年5月の議長就任  
以来、その責任の重大さを痛  
感すると共に、南島原市のよ  
り一層の発展のため、誠心誠  
意努めてまいりたいと決意を  
新たにしております。

年越しや正月が一大行事で  
あった私の子どもころとは  
違い、今や、それらも日常生  
活の中のひとつまになりつつ  
ありますが、「初日の出」に  
一陽来復を期待し、新春を寿  
ぐと、心が洗われるようで、

身の引き締まる思いが  
します。

毎日を忙しく過ごす  
中で、私たちはともす  
れば目先のことにとら  
われがちですが、今一度、  
この区切りの時に、じ  
つくり自分というものを振り  
返り、周囲の状況にも目を配  
りながら、新年に「思い」を  
新たにすることも、意義深い  
ことではないでしょうか。

さて、早いもので合併して  
5回目の新春を迎えますが、  
これまで築き上げられた各地  
域の特性を最大限に活かしま  
がら、南島原市として一体感  
の醸成ができてつとあると実感  
しています。

その間には、島原半島ジオ  
パークが、世界ジオパークネ  
ットワーク加盟の認定を受け  
るといふ、うれしいニュース  
もありました。また、昨年4  
月には、認定証の授与式が行  
なわれ、私たちの「身近な自  
然」が、世界に認められた記  
念すべき年になりました。

一方、国の方では、昨年、  
行政刷新会議の事業仕分けが  
国民の注目を集めました。国  
の事業について、必要性があ  
るか、国がやるべき仕事なの  
かなどチェックする作業です  
が、さまざまな方面に物議を  
醸したようです。

合併以降、南島原市でも、  
「財政健全化」の掛け声のもと、  
さまざまな行財政の改革が進  
められています。しかしなが  
ら、そのような苦しい財政状  
況の中にあっても、削減され  
るべきもの、残さなければな  
らないもの、その見極めが大  
切だと思っています。

市政においても、無駄を省  
き、限られた予算を最大限有  
効に活かすため、市議会の場  
で議論を尽くし、将来の南島  
原市のあるべき姿をしっかりと  
見定めて、先人から受け継い  
できた、この「ふるさと」を  
守り、さらに充実発展させて  
いくことが重要だと考えてい  
ます。「改革」という言葉が  
独り歩きしないよう、市民の

声に真剣に耳を傾け、舵取り  
を誤らないよう、市当局の動  
きをしっかりと注視していま  
います。

本市の市議会は昨年4月の  
改選により定員を6人削減し、  
24人の議員でスタートしまし  
た。今、地方分権が進む中で、  
地方の自治体意思決定機関で  
ある議会が、ますます大きな  
責務を担ってくださると思  
います。

今後とも、議会運営にあ  
っては、皆さま方のご意見  
ご要望を拝聴し、「市民の皆  
さまが、快適に住み、働き、  
憩うことのできる南島原市」  
の実現を目指し、議員一同、  
力を合わせ、議会の機能を十  
分に発揮できるように、さらな  
る努力をしていく所存です。

どうか、市民の皆さまにお  
かれまして、今まで以上に  
温かいご支援、ご協力を賜り  
ますようお願い申し上げます。  
最後に、新しい年が皆さま  
にとって、ご健勝で、実り多  
い年でありますようお願い申  
し上げまして、年頭のごあい  
さつといたします。

# 活力に溢れ、生きがいを持って暮らせる郷土づくりを目指して



長崎県知事  
中村 法道

新年明けましておめでとう  
ございます。

南島原市の皆さまには、お  
すこやかに新春をお迎えのこ  
ととお慶び申し上げます。私  
も、知事に就任して初めての  
正月を迎え、県民の皆さまと  
共に、長崎県を活力に溢れ、  
生きがいを持って暮らせる郷  
土にしていきたいという思い  
で、県政の推進に全力を挙げ  
て取り組んでいく決意を新た  
にしたところです。

今年、これからの県政運  
営の指針となる新しい総合計  
画のスタートの年です。「人  
が輝く、産業が輝く、地域が  
輝く長崎県づくり」を基本理  
念として、人を大切にする県  
政の推進を基軸に据え、本県  
の産業や地域を担う人づくり、

一人ひとりをきめ細か  
く支える施策の充実、  
さまざまな産業の活性  
化と雇用の場の創出、  
住民の創意と工夫を活  
かした地域づくりなど  
に、県民の皆さまと力  
を合わせて取り組んでまい  
ります。

県政の主要事業である「九  
州新幹線西九州ルート」は、  
現在、武雄温泉―諫早間の工  
事が順調に進められていると  
ころです。残る諫早―長崎間  
については1日も早く着工認  
可を受け、平成30年4月を目  
標に武雄温泉―長崎間をフル  
規格で一括開業し、新幹線効  
果を県内各地が享受できるよ  
う、引き続き全力で取り組ん  
でまいります。

また、昨年は、NHK大河  
ドラマ「龍馬伝」の舞台が長  
崎となったこともあり、全国  
から龍馬ファンをはじめ多く  
の皆さまにご来県いただきま  
した。今年は、この「龍馬伝」  
効果が一過性に終わらないよ

うに、長崎歴史文化博物館の  
幕末・近代化に関する展示を  
充実させるとともに、「食」  
と各地域の観光資源を融合さ  
せたイベントの開催や、「長  
崎の教会群とキリスト教関連  
遺産」「島原半島ジオパーク」  
「支国博物館」など、長崎  
ならではの歴史、文化、食、  
自然等の資産を有効に活用し、  
引き続き多くの観光客におい  
ただき、本県が活気に満  
ち溢れた県となるよう努めて  
まいります。

さらに、県民の皆さまが抱  
えているさまざまな思いや痛  
みに敏感に対応した医療・福  
祉・子育て支援等の施策は非  
常に大切であると考えていま  
す。中でも、乳幼児医療費助  
成の現物給付については、今  
年4月から、ほとんどの市町  
において実施される予定です。

これにより、子育て家庭の負  
担が軽減され、安心して医療  
を受けることができるように  
なります。

「長崎がんばらんば国体」  
が開催されますが、昨年は、  
内村航平選手の世界体操競技  
大会での日本勢初の個人総合  
2連覇や、大久保嘉人選手の  
サッカーワールドカップのベ  
スト16進出などの快挙があり  
ました。あらためてこれらの  
栄誉を讃えらるとともに、ス  
ポーツに励む県内の子どもたち  
に大きな夢と希望を与えてく  
れたと思っています。

私は、県政の主役は、県民  
の皆さまと考えています。こ  
れからも可能な限り現場に出  
向き、皆さまから直接ご意見  
をお聞きしながら県政を進め  
てまいります。そして、子ど  
もたちが将来ここに生まれ育  
つて良かったと思えるように、  
夢と希望に満ちた長崎県づく  
りに取り組んでまいります。

結びに、本年が、南島原市  
の皆さまにとりまして素晴ら  
しい年となりますよう心から  
お祈りいたしまして、新年の  
ごあいさつといたします。

## 南島原市の 2010年は、 こんな年でした



市川森一作「幻日-原城攻防絵  
図-」長崎新聞で連載開始  
(写真は夢一夜城)



南島原市加津佐町出身の佐田  
の富士関が、十両昇進



市の誘致企業、日本トータル  
テレマーケティング株式会社  
が深江町に開業



藤原市長就任。市議会議員は  
6人減の24人体制で始動



全日本小学生ソフトボール大  
会が南島原市で開催。有家少  
年SBCが、ベスト8入り



南島原植樹(詳細6ページ)。  
南有馬町上原に水源の森が誕生



福祉タクシー券、ヒブワクチ  
ン、子宮頸がんなどの事業が  
次々と実現